

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		事業開始年度	平成4年度～	根拠法令・例規等	国民文化祭開催要綱（文化庁）	
総合計画	大項目	基本目標	03			地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目	基本施策	03			歴史と文化の輝くまちづくり
	小項目	施策	01			文化芸術の振興
事務事業名		01	文化活動推進事業	問合先	担当課（室） 生涯学習課文化係 職・氏名 文化係長 石井 啓 電話 0869-64-1841	

事業の実施		対象（誰・何に対して）	市内外の子どもから大人まで、芸術文化に興味のある人。
目的（何のために）		目的	文化は心豊かな人間性を育むものである。地域の芸術文化に親しむ機会を提供し、市民の文化力を高めていく。
行政活動（どのような方法で）		行政活動	吹奏楽演奏会の開催。 伝統文化等の助成に対する情報の提供。 国民文化祭の開催に向けた準備事業。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）		成果	吹奏楽については、参加団体が自主的に活動していけることを目指す。 国民文化祭は、平成22年度の開催に向け多くの方に参加していただけるよう周知を行なう。参加することにより、地域の文化の再発見につなげていく。

事業の実績		実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
活動	実績	備前吹奏楽フェスティバル	団体	9	9	9
		国民文化祭関連事業参加者	人			50
実績	結果	直接事業費	千円	123	136	310
		必要人員	人	0.15	0.12	0.28
		人件費	千円	1,300	850	2,036
		事業費	千円	1,423	986	2,346
		国庫支出金	千円			
		受益者負担	千円			
		繰入金	千円			
		市債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	1,423	986	2,346
受益者負担比率	%					
結果	指標	結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
		参加団体数	団体	9	9	9
		結果指標量	団体	9	9	9
		対前年率	%	100.0%	100.0%	100.0%
		活動コスト	円	1,423,000	986,000	582,000
		単位当たりコスト	円	158,111	109,556	64,667
		参加者数	人			50
		結果指標量	人			50
対前年率	%					
活動コスト	円			1,763,000		
単位当たりコスト	円			35,260		

事業の成果		成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
改善がある場合	評価の視点	改善内容	目標値 (A)			60	1,500
			実績値 (B)			50	到達目標年度
			達成率 (B/A)			83.3%	平成22年度
成果指標設定の考え方・式や説明							
国民文化祭対象予定行事の参加者数（H20、21は実行委員会関連行事参加数）							

事務事業の評価		市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input checked="" type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E>	B
市民ニーズ	市民参画度	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い 説明 備前焼を通じた文化芸術の振興に期待が集まっている。	判定理由・課題認識	国民文化祭は、文化庁が主催し毎年度各都道府県が持ち回りで開催している。平成22年度には岡山県での開催が決定している。県下全市町村が参加を予定しており、特に備前市は県下7市共催で美術展（備前市は陶芸部門）を開催するため、本市が事業をとりやめた際の文化芸術に対する影響は大きい。
		コスト	<input type="checkbox"/> 単当たりコストは前年度と比較して改善している <input checked="" type="checkbox"/> 実施方法（派遣・委託等）を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている		
目的達成度	市民参画度	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価<A~E>	B
		市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input checked="" type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている		

平成21年度の状況		目標値	結果指標量①	9	結果指標量②	300	成果指標量	1,500
状況	説明	拡充	〇	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
		説明	吹奏楽フェスティバルは、前年度とおり人的コストの削減に努める。国民文化祭は、平成21年度は4月から積極的に実行委員会、企画委員会を開催し、募金活動・啓発活動・各団体への説明・ボランティア募集・講習など多彩な前年度準備を行う。					

総合評価

H19「全国生涯学習フェスティバル」どの相違は、特に美術展は全国公募による大会であることと、各賞の受賞者が全国から備前市を訪れることである。発送先だけで300～400箇所であり、作品も200点程予想される。国民文化祭は社会教育関係団体の活性化やボランティアの人材養成、児童生徒の文化体験活動に有益な事業でもあるので、生涯学習の推進に大いに活用できる。市予算対応（実行委員会補助金）は「まなびピア」と同額（約350万）とする方向で財政と協議。他8割近い実行委員会の補助を21年度から積極的に交渉し、21年度は秋までに22年度実施予算の確定と前年度準備（ポスター・パンフ・要項発送）対応、本番に向けての体制づくり及び市民への広報啓発活動を行い、全行事を確定させる重要な年である。

評価区分<A~E>

B

平成22年度以降の方向性・内容		方向性	〇	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	21年度は開催前年であり、今年度で決まったことが最重要である。22年度秋に一番盛り上がるよう、計画的準備を行う。					
				改善により期待される効果	効果	美術展共同会議で7市の「経費面」での足並みを揃える。			
効果	22年度 先催県平均の半額での美術展実施。								

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。